

2019年12月5日
NHK広報局

12月会長定例記者会見

Q. “体感 首都直下地震ウイーク”について

A. (上田会長) NHKが9月から総力を挙げて取り組んでいるキャンペーン《災害列島 生きるスキル》の取り組みの一つ、“体感 首都直下地震ウイーク”が始まりました。12月1日から8日までの間、「NHKスペシャル」7本をはじめ、様々な番組を通じて、命を守るための情報をお伝えしています。

自治体や企業とも連携し、12月2日には渋谷区役所で災害対策本部の設置訓練を行うなど、各地で訓練が行われました。

4夜連続でお伝えしてきたドラマ「パラレル東京」は、放送と連動したSNS発信の取り組みも含め、「災害を『自分のこと』として考えさせられた」という声が寄せられています。

NHKは今後も、《災害列島 生きるスキル》キャンペーンを通じ、公共メディアとして、災害時に役立つ情報をお伝えしていきます。

(詳細は報道資料参照)

Q. “2020” キャッチフレーズについて

A. (会長) いよいよ2020年が近づいてきました。東京2020オリンピック・パラリンピックが開催される来年、NHKが取り組む様々な放送・サービスを通じて、視聴者の皆さまにお伝えしたいメッセージをキャッチフレーズにしました。

キャッチフレーズは、「挑戦に、リスペクトを。」です。

多くの人がアスリートたちの挑戦に感じられる尊敬の念、リスペクトを、まわりのすべての人々の挑戦にも向けて欲しいという思いを込めました。アスリートも、隣の人も、遠い国の人も、すべての挑戦に等しくリスペクトを持ち、尊重することが、分断や差別、対立といった、いまの社会が抱える多くの問題に解決の糸口を与えてくれるのではないかと考えます。こうした思いを多くの人に持ってもらうことこそ、公共メディアとして、NHKが2020年の放送・サービスを通じて社会に残したいと考えているレガシーの一つです。

具体的には、年明けから、このキャッチフレーズを、オリンピック・パラリンピックに限らず、様々な番組や、言葉に込めた思いを紹介するミニ番組、番組ポスターやイベント、さらにはNHKのホームページなどで紹介していきたいと思えます。

2020年、人々が何かに挑戦する忘れられない場面に、このキャッチフレーズを添えることで、視聴者の方々にメッセージをお伝えしていきたいと思っています。
(詳細は報道資料参照)

Q. 第56回ABU総会を振り返って

A. (会長) ABU・アジア太平洋放送連合の総会は、今年が56回目で、9年ぶりに東京で開かれました。関連行事を含め11月17日から22日までの日程で開催され、放送局のトップや担当者など、600人以上が参加しました。

私は昨年のトルクメニスタン総会でABUの会長に就任しており、今回初めて総会の議長を務めました。最終日には、「公共メディアへの進化」と題して基調講演を行い、放送と通信を組み合わせたマルチプラットフォームによる災害報道など、メディアへの信頼を得るためのNHKの取り組みを紹介し、パネリストが意見を交わしました。会場内には「NHKショーケース」を開設し、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたNHKの最新技術や制作ノウハウを紹介しました。訪れた人たちからは、「8Kの臨場感に驚いた。先導的なNHKの取り組みをぜひ学びたい」などと大きな反響がありました。

また、優れた放送番組に贈られるABU賞の授賞式が行われたほか、エンターテインメント分野での交流を通じた放送文化の発展を目的としたABUテレビソングフェスティバルが開かれました。ソングフェスティバルの様子は、総合テレビで12月28日の午後11時から放送する予定です。

今年の総会は、放送局どうしの情報共有や連携強化、そしてNHKの取り組みを知っていただく有意義な機会となりました。会員同士が伝えあい、学びあうことで、放送の未来を切り開くヒントにつながることを願っています。

今回の東京総会の経験をいかし、NHKは、これからもABUや世界の放送機関との連携を進め、世界の放送文化の向上に貢献していきたいと考えています。

Q. 年末年始のBS4K・BS8K

A. (会長) NHK BS4K、BS8K放送は、12月1日から2年目に入りました。A-PAB＝放送サービス高度化推進協会によりますと、4K・8Kの視聴可能機器が10月末に218万台を越えるなど、普及が進んでいるという報告がありました。NHKは引き続き、民放やメーカー、関係する団体と連携し、普及推進の先導的な役割を果たしていきます。

より多くの皆さまに4K・8Kをお楽しみいただくために、年末・年始も多彩なコンテンツを放送します。12月21日にはNHK交響楽団による年末恒例「第9」の演奏を8Kの生中継で、30日には8Kドラマ3作目となるスペシャルドラマ「ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」を放送します。

11月には、プロボクシングの中継としては、およそ60年ぶりとなる井上尚弥選手の世界戦をBS8Kで放送しましたが、12月23日は村田諒太選手の世界戦をBS8Kで生中継します。

年末の「NHK紅白歌合戦」はBS4K、BS8Kでも放送します。2Kとは違った視点で、舞台転換を見せるなど、観客席にいるかのような感覚を味わうことができます。高精細映像による「紅白歌合戦」も是非お楽しみください。また、東京・新宿ルミネゼロでの8Kパブリックビューイングや、全国の放送局の一部でも受信公開を行う予定です。

BS8Kの1月の編成テーマを「8Kで復活！あなたも歴史の目撃者」と題して、古い貴重な映像や画像を8Kでよみがえらせた番組を集中的に放送します。一つは、およそ150年前に撮影された古い写真から、当時の日本の姿を発見していく番組「ここまで見える！8Kでよみがえる幕末・明治の日本」です。縦10センチ横20センチほどのガラス原板に精密に記録されていた写真をデータ化し、8Kモニターで拡大することで見えてきた、江戸から東京へ変わりゆく時代の町の風景や、当時の人々の暮らしぶりを発見していく番組です。もう一つは「いまよみがえる伝説の名演奏・名舞台」です。カラヤンやバーンスタイン、クライバーなど、20世紀の巨匠たちの指揮による演奏を8Kでよみがえらせました。ドイツで厳重に冷凍保管されていた名演奏のフィルムを、NHKが独自に8Kの超高精細映像と22.2チャンネル立体音響にリマスターし、20世紀の名演奏を皆さまにお楽しみいただく番組です。

BS4K、BS8Kでは、スポーツ中継や音楽番組など、まるでその場にいるかのような臨場感溢れるコンテンツや、豊かな映像表現でストーリーを描いていくドラマ、歴史的価値のある古い映像を超高精細映像でよみがえらせる番組など、今後もより多くの皆さまにお楽しみいただけるようなコンテンツを放送してまいります。

(詳細は報道資料参照)

(以上)